

研究 主題	児童が試行錯誤を重ねながら、思考を深める授業を目指して ー運動との多様な関わりを意図的に取り入れた実践を通してー
----------	---

第6学年体育科学学習指導案

指導月日 令和2年10月16日

所属校名 大河原町立大河原小学校

氏名 佐藤 裕太

1 単元名 陸上運動「短距離走・リレー」

2 単元の目標

- (1) 体を前に傾けてスタートし、上体の余分な力を抜いて短距離を走ったり、次走者と息を合わせて減速の小さいバトンパスをしたりすることができるようにする。 [知識及び技能]
- (2) 自分やチームの能力に適した課題の解決の仕方、競走や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 [思考力, 判断力, 表現力等]
- (3) 短距離走やリレーに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗の結果を受け入れたり、友達の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりできるようにする。 [学びに向かう力, 人間性等]

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）体育〔第5学年及び第6学年〕内容の「C 陸上運動」「ア 短距離走・リレー」を受けて設定した。高学年の陸上運動は既習事項を踏まえ、基本的な技能を身に付けるようにし、中学校の陸上競技の学習につなげていくことが求められる。

短距離走は、スタンディングスタートから素早く走り始めることや上体をリラックスさせて全力で走ることなどの技能を向上させながら、記録の向上を目指して、一定の距離を全力で走る楽しさを味わうことのできる運動である。

リレーは陸上運動の中で唯一のチーム競技であり、チームワークが必要とされる。全力で走りながら仲間とバトンをつないで記録に挑戦したり、チームとチームで競い合ったりすることを楽しむことができる運動である。単純な個人の走力だけで勝敗が決まる訳ではなく、意外性があることも特徴である。しかし、走ることが苦手な児童にとっては、練習が単調になりやすいことや、走る距離が長くなったり本数が増えたりすることによって、学習意欲に差が出やすい運動でもある。また、テークオーバーゾーン内で減速の小さいバトンパスをすることなど、ある程度の技術が必要である。チームとして課題を設定し、解決に向けて試行錯誤していかなければ記録を伸ばすことが難しい運動である。

4 児童の実態 [第6学年2組34名]

本学級には、男子17名、女子17名の児童が在籍している。7月の実態調査から、短距離走に苦手意識を抱いている児童は少ないことが分かった。しかし、今年度7月に計測した50m走の平均タイムでは、男女ともに平成30年度全国体力・運動能力調査の全国平均値を下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症予防により、様々な場での運動機会が減少していることも要因であると考えられる。短距離走・リレーを実践するに当たり、体力向上の点からも授業を構成していく必要がある。

リレーに関しては学級の全員に運動経験があり、半数以上の児童は学級対抗リレーへの出場により、ある程度の技能が備わっているものと考えられる。しかし、運動・体育に関する実態調査の質問項目⑧で無答者が11名いることや「テークオーバーゾーン」という語句を知らない児童が26名いることなどから、速く走るための技能やバトンパスの技能の習得と同時に、リレーという競技への正し

い知識を習得させる必要があることが分かった。また、今回実践するリレーについて、「短距離走が得意ではない」と回答した児童ほど、「疲れそう」「プレッシャーが掛かる」「ドキドキする」という否定的なイメージを持つ傾向が見られた。

I期の実践で活用したICTは、児童の課題解決にとっても有効であり、短距離走・リレーの学習においても役に立ちそうだと回答した児童がほとんどであった。

運動・体育に関する実態調査（7月） 調査児童数：34名 調査日：7月30日		
①短距離走は得意か。（選択回答） ・得意10名 ・まあまあ得意18名 ・あまり得意ではない3名 ・得意ではない3名		
②50m走の平均タイム（男女別）	(男) 9.2秒 (H30年度全国平均8.79秒)	(女) 9.1秒 (H30年度全国平均9.12秒)
③リレーをしたことはあるか。（選択回答）	(はい) 34名	(いいえ) 0名
④学級対抗リレーに出場したか。（選択回答）	(はい) 19名	(いいえ) 15名
⑤リレーにどのようなイメージを持っているか。（自由記述） ・疲れそう9名 ・バトンをつなぐことが大切8名 ・楽しそう6名 ・チーム力が高まる5名 ・プレッシャーが掛かる4名 ・ドキドキする2名		
⑥走り高跳びではICTを使ったが、リレーでもICTは役に立ちそうか。（選択回答）	(はい) 32名	(いいえ) 2名
⑦速く走るためのポイントは何だと思うか。（自由記述） ・腕を速く振ること12名 ・足を上げて走ること4名 ・つま先で走ること3名 ・前傾で走ること2名 ・足を遠くへ着くこと2名 ・手を開いて走ること2名 ・腕を伸ばすこと1名 ・上体を起こすこと1名 ・遠くを見ること1名 ・分からない6名		
⑧4人の100m走の合計タイムより4×100mRのタイムが速いのはなぜか。（自由記述） ・バトンを渡す時、すでに次の走者が助走をしてトップスピードに達しているから9名 ・バトンパスが上手いから7名 ・チームワーク、絆の力が強いから5名 ・カーブで速くなるから2名 ・無答者11名		
⑨テークオーバーゾーンを知っているか。（選択回答）	(はい) 8名	(いいえ) 26名

5 指導観

本単元の指導に当たって、チームの友達と目標記録を達成する喜びを味わわせたり、リレーにおけるバトンパスの技能を高めたりするために、自分やチームの課題を明らかにして、その解決のために練習方法を工夫することを重視していく。

単元の導入時において、シラバスを活用して単元の学習の流れや最終的な目標を児童に意識付ける。また単元を通して、授業の終末に振り返った自分やチームの課題を、次時の目標として捉えさせていく。その際には、課題として挙げたものが適切であるかどうか、同じチームの友達と一緒に判断させることで、運動の効率を上げるだけでなく、自分の課題を把握する力も伸ばしていきたい。これを続けていくことが、課題を常に明確に持ちながら運動に取り組むことや、課題を見つけて解決しようとする姿勢の育成につながると考える。

単元の構成について、第1時では、実際に4×50mリレーを経験させ、これから記録を向上させていくためにはどのような力や技能が必要になるのかを児童から引き出していく。ここでは、「個人の走力向上」と「バトンパスの技能向上」が挙がることを予想している。チームのメンバー構成は、50m走の記録を基に、速さが平均的になるように分けていく。毎時間、リレーの記録とその伸びをグラフに記録させることで、意欲の向上につなげていきたい。

第2時では、個人の走力向上について、「スピードに乗るためのスタートの仕方」と「スピードを

落とさない中間走のフォーム」にポイントを絞り、一斉授業の形態を取りながら指導する。授業後半では練習した走り方を生かし、50m走の計測を行っていく。学習前の記録と比較をさせるとともに、現在の走力を的確に把握させる。

第3時では、バトンパスを重点的に指導する。オーバーハンドパス、助走開始マークの目安など、児童が友達の動きについて「みる・支える」関わりを意図的に増やし、試行錯誤していけるように指導していきたい。また、児童が走る順番を変えたり、テークオーバーゾーンの使い方を工夫したりすることを積極的に認め、楽しみながら試行錯誤できるような声掛けをしていく。さらに、第3時で解決できなかった課題を、次時への目当てに設定させることで、第4時では自分やチームの課題解決に向けての試行錯誤に焦点を当てさせていく。

第4時では、今までの学習を生かして自分やチームの課題解決のため、タブレット端末等を使いながら、自分の動きや友達の動きを客観的に分析させていく。教師は主にフィールドで課題解決練習への助言や良い動きを紹介する一斉指導の形を取り、課題解決のための視点を与えていく。それと並行して、トラックでは児童主体で記録を取らせる。走っているチームと準備しているチームで役割を分担し、助言をしながら自分の課題を捉えたり、解決に向けての練習を考えたりさせていきたい。

第5時には、これまでの学習を振り返り、チームの力を最大限に発揮できるように記録会を行うことで、短距離走・リレーの技能向上を実感させ、達成感を味わわせることができると考える。

6 研究主題との関連

本主題における「試行錯誤」とは、技能面の課題解決に向けて場や練習方法の工夫をしたり、グループで作戦を立案・実行・反省したりすることである。また、「思考を深める」ということは、運動との多様な関わり方と関連付けながら、課題を見付けたり、解決のための方法を工夫したりすることであると捉えている。課題解決に向けて何度も試行錯誤を重ねることによって、新たな課題の発見や気づきなどが生まれ、それが体育の授業における思考の深まりにつながると思う。

I期の実践から、自分と友達の課題をチームでどのように解決していくかということに重きを置いたことによって、運動を「する」関わりだけでなく、「みる・支える・知る」といった運動との多様な関わりができた。しかし、課題を適切に把握することは児童にとって難しかった。また、児童同士が関わり合いながら授業を進めようとする意識を更に向上させるために、児童が授業の中でどのように運動と関わればよいか、具体的な姿を示す必要があると考えた。このような授業を目指し、児童に試行錯誤させる教師の仕掛けを研究の視点として、以下の点を工夫していく。

(1) 多様な関わりを生み出す学習カードの工夫

- ① 学習カード自体が運動の参考となるように連続写真やポイントなどを示す。(知る関わり)
- ② 互いに運動を見合い、主体的な課題解決へ向け、改善された点や課題への助言を学習カードに書かせたり、チームカードで関わりの様子を自己評価させたりする。(みる・支える関わり)
- ③ 課題解決への意識を高めるため、自分の運動の課題や成長したことを学習カードに書かせる。(する・知る関わり)

(2) 解決への思考を促すICTの活用

- ① チーム内で、自他の運動を録画し振り返ることを徹底させることで、運動を客観的に分析させたり、課題解決に向けての方法を考えさせたりする。
- ② タブレット端末を活用して、自他の課題が適切かどうかチームで判断させる。

(3) 解決への視点を与える教師のフィードバック

- ① 単元の目標となる姿、1単位時間の目標となる姿をイメージし、課題解決のために必要な発問や練習方法をあらかじめ準備し、児童が試行錯誤しながら思考を深めていけるようにする。
- ② 児童自身で解決することが難しい場合は、場や練習方法を提示したり、具体的なポイントを示したりしていく。
- ③ 練習中の見取りや学習カードで児童の成長を認め、運動への喜びや楽しさを味わわせていく。

7 単元の指導と評価の計画（5時間扱い 本時4／5）

時数	1	2	3	4 本時	5
導入	①集合・整列・挨拶 ②準備運動 ③サーキット練習（前の時間で出た自分の課題に合わせた練習） ④目当ての確認				
展開	○記録を取る。 ・現在のチームの記録を知り、記録向上の課題解決に目を向ける。	○上体の余分な力を抜いて走る練習を行う。 ・スタート ・中間走	○バトンパスの練習を行う。 ・バトンパスの仕方 ・助走開始のマークの目安	○記録を取る。 ○課題を解決し合う。 ・チームの課題を絞り、リレーの記録を取ることと並行して、課題解決に向けて練習する。 ・テークオーバーゾーンの使い方 ・マークの調整 ・バトンパス等	○最終調整を行う。 ・チームごとに前時の課題であったところを練習し、調整する。
	○これからの学習で必要なことを考える。 ・学習の進め方 ・チームでの目標記録設定	○50m走を計測する ・前半練習したフォームを意識して走る。 ○記録を取る。	○記録を取る。 ○練習の中でチームの課題を見付ける。 ・走る順番 ・バトンパス等		○チーム対抗記録会を行う。 ・記録の伸びを得点化し、チーム対抗で競う。
終末	○1回目のリレーを振り返る。 「どうすれば記録を伸ばすことができるか。」	○短距離走について振り返る。 「走り方は変わったが、バトンパスが上手くいかない。」	○チームや自分の課題について振り返る。 「課題解決に向けた練習は何が必要か。」	○チームで成長したことを振り返る。 「目標記録を達成するために、何に気を付ければよいか。」	○チームや自分の成長したことを振り返る。
評価	進んで走ったり、安全に気を付けて用具の準備や片付けをしたりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	自分の走力を知り、体を前に傾けたスタートから、上体の余分な力を抜いて短距離を走ることができる。【知識・技能】	自分の走力やチームの記録からチームの課題を把握し、解決に向けて練習の仕方を工夫している。【思考・判断・表現】	チームの課題解決に向けて練習の工夫をしたり、運動のポイントを押さえて伝えたりしている。【思考・判断・表現】	次走者と息を合わせて減速の少ないバトンパスをすることができる。【知識・技能】

8 本時の計画

(1) 目標

チームの課題解決に向けて練習の方法を工夫したり、友達の課題解決に向けて運動のポイントを押さえて声掛けをしたりしながら、運動できるようにする。

(2) 本時の指導に当たって

試行錯誤を重ねながら、思考を深めさせるために以下の手立てを講じて指導していく。

《手立て①》 多様な関わりを生み出す学習カードの工夫

学習カードに課題を明記させたり、練習方法の図やポイントを載せたりすることで、課題解決に向けて主体的に運動に取り組めるようにする。また、「する・みる・支える・知る」という観点を示したチームカードを活用させることで、チーム内での関わりを可視化し、活性化させていく。

《手立て②》 解決への思考を促すICTの活用

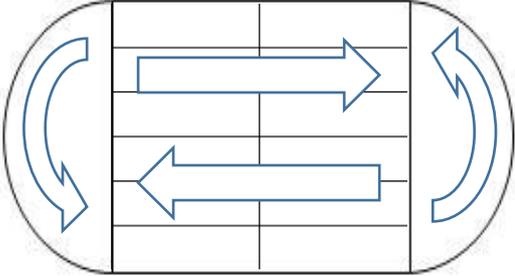
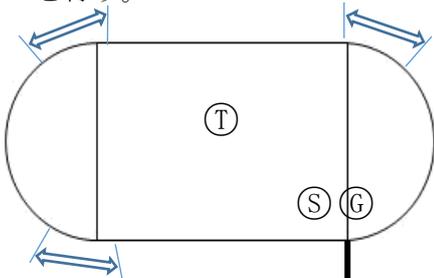
バトンパスや助走の仕方等をタブレット端末で撮影し、チームで確認させることで、良かった点や改善点を捉えさせていく。タブレット端末は、「バトンパスの手の位置」「マークの調整」など、活用の視点を絞ることで、課題を的確に把握し、解決に向けて練習させていく。

《手立て③》 解決への視点を与える教師のフィードバック

本時の学習では、「テークオーバーゾーンの使い方」「バトンパスの手の位置」「マークの調整」等の課題が挙げられると思われる。そこで、前時までの学習カードや動画で実態を把握し、主に苦手な児童を中心に課題解決の助言を与えていく。同時に、同じチームの児童には、タブレット端末を活

用させながら「どう変化したのか」「どうすると良くなると思うか」といった声掛けで課題解決への思考を深めさせていく。

(3) 指導過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点（※評価の観点）
導入 10分	1 整列・挨拶をする。 2 準備運動をする。 ・教師の動きに合わせて、各部位の運動を行う。 3 走力を高めるサーキット運動を行う。 ・課題解決につながる場を選択し練習する。 （小さきみ走，ぐるぐるバトン，3秒間走）	○新型コロナウイルスへの対応として，間隔をあけて整列し，児童の健康観察を行う。 ○心拍数を高める準備運動をさせながら，本単元で使う部位を中心に十分ほぐさせる。 ○単元を通して，短距離走・リレーの技能につながる運動を取り入れ，運動能力を向上させる。
展開 30分	4 本時の目当てを確認する。 減速の少ないバトンパスをするために，課題解決の練習方法を工夫しよう。 5 チームの課題から練習方法を考え，課題解決に向けて練習に取り組む。 ・前時の記録から，「テークオーバーゾーンの使い方」「バトンパスの手の位置」「マークの調整」等，チームでの課題を明確にして取り組む。 ・課題解決練習はトラックの内側を使用する。 ・改善が見られたチームがあれば，集合して，どこが上達したのか学び合う。  6 チームの記録を取る。 ・課題解決練習を生かし，記録向上を目指してリレーを行う。  ※㉟はスタート，㉠はゴール，㉡はタブレット，㉢はテークオーバーゾーンを示す。	○学習カードや児童が撮影した記録映像から，事前に児童，チームの課題を教師が把握し，実態に応じて練習の方法を助言する。《手立て③》 ○前時までの学習カードを振り返らせ，チーム内で課題を共有し，練習方法を考えさせる。トラックの内側を全て使用可能とすることで，直線だけでなく，コーナーを使ったバトンパスも練習が可能であることを捉えさせる。《手立て①》 ○チームに一台タブレット端末を用意し，自分の感覚や次走者との調整，録画機能や友達からの視点などを取り入れ，試行錯誤させながら課題解決させていく。《手立て②》 ○運動の苦手な児童には，チーム内の児童に課題解決への助言等を行わせながら支援していく。また，改善が見られたチームの動きを取り上げ，一斉指導において，課題解決への運動のポイントを視覚的に示す。《手立て③》 ※チームの記録を振り返り，自分やチームの課題に合った練習を考えたり，課題解決に向けて友達の運動を見ながら助言したりすることができたか。【思・判・表】（学習カード・観察） ○学習活動5と6については，トラックとその内側を使用し，安全に配慮しながら同時進行で学習を進めていく。 ○チームの記録は，セパレートコース2レーンを使用して取っていく。次に記録を取るチームにトラック中央で録画を行わせる。気付いた点は画面越しではなく，直接動きを見て，バトンパスについての助言等を時差なく伝えさせる。 ○走り終えた児童には，確実にバトンパスを振り返らせ，今までの課題と照らし合わせながら次の練習への課題を捉えさせる。《手立て②》

	<ul style="list-style-type: none"> 次に記録を取るチームは、前のチームのバトンパスを見て、助言を行う。 「減速していなかったよ」 「距離が少し詰まっていたから、もう3足くらい伸ばしてみたらどうかな」 	<ul style="list-style-type: none"> ○解決が見られた児童には、「なぜうまくできるようになったか」振り返らせる。解決が難しい児童には教師からの具体的な助言や新たな練習方法の提案を与えていく。《手立て③》 ※課題が解決できているか自己評価したり、次の練習への課題を見付けたりすることができたか。【思・判・表】（学習カード・観察）
終末5分	<p>7 振り返り、次時の課題設定を行う。</p> <p>8 整理運動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習で成長したことを振り返り、次時の記録会での目標などを設定させる。

(4) 本時の評価

チームの課題解決に向けて練習の方法を工夫したり、友達の課題解決に向けて運動のポイントを押さえて声掛けをしたりしながら運動することができたか。（思考・判断・表現）

A 十分満足できる児童の姿	B おおむね満足できる児童の姿
<ul style="list-style-type: none"> 自分やチームの課題を自覚し、改善のために機器や友達の助言を生かして練習をしている。 友達の課題を捉え、良くなった点や解決に向けての具体的な助言を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を自覚し、改善のためにチームで協力して練習をしている。 友達の課題を捉え、理想の動きと比較して声掛けすることができる。
C 支援を要する児童の姿と具体的な支援	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題解決に向けた練習の方法が分からない。 →チームの友達からの助言を受け、課題解決に適した練習の方法について気付きを促す。 友達の課題に対して、どのように声掛けをすればよいか分からない。 →友達と課題を共有し、実際にバトンパスを見た後で、「減速していなかった」「腕が上がっていた」等、良かった点に焦点を当てさせる。 	

(5) 準備物

デジタルタイマー、ミニコーン、アルミバトン、ホワイトボード、タブレット端末

(6) 本時の学習カード

短距離・リレー学習カード④ 名前 _____

今日の目当て _____

減速の少ないバトンパスをするために、課題解決の練習方法を工夫しよう。

小さざみ走 (スタート)	大また走 (中間走)	ぐるぐる バトン (バトンパス)	3秒間走 (瞬発力)
-----------------	---------------	------------------------	---------------

チームの課題… _____

自分の課題… _____

○どのような練習? → _____ 練習

○今日の記録… _____ 秒 !!

〈あれここシート〉

さんより	
さん	
さん	
さん	

◎次回の課題はここ → _____ !

今日の振り返り

自分やチームの課題を少しでも改善することができたか。	
課題改善のために動きを見てアドバイスしたり練習方法を考えたりすることができたか。	
安全に気を付けて、運動に取り組むことができたか。	

小さざみ走 (スタート)	大また走 (中間走)	ぐるぐるバトン (バトンパス)	3秒間走 (瞬発力)
-----------------	---------------	--------------------	---------------

運動と関わりながらチーム力を高めよう!!

○記録を伸ばすために、チームで課題解決に取り組んだか? (する)

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

こんなところで振り返ろう!

- ・夢中で練習した
- ・何故も挑戦した
- ・達成できた
- ・手本を見た
- ・アドバイスを実践した

○自分や友達の様子を見て、ポイントやコツに気付いたか? (見る)

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

こんなところで振り返ろう!

- ・うまい人と比べてみた
- ・チームの変化に気付いた
- ・サーキット運動とのつながりを考えた
- ・コツに気付いた

○チームで友達の様子を確かめたり、課題についてアドバイスしたりすることができたか? (支える)

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

こんなところで振り返ろう!

- ・良かったことを伝えた
- ・声援を伝えた
- ・ポイントを押さえて自分なりの声掛けした

○より良い走り方、バトンパスを学ぶことができたか? (知る)

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

こんなところで振り返ろう!

- ・運動のポイントやコツを言葉にできた
- ・気付いたことを書いた
- ・自分がどこまでできているか知っている